
PerfParse delete policies

パフォーマンスデータの削除について

Version 1.0

Copyright © 2005 Isidore.

保証免責

本書は記載事項またはそれに関わる事項について、明示的あるいは黙示的な保証はいたしておりません。したがって、これらを原因として発生した損失や損害についての責任を負いません。

著作権

本書および本書に記載されておりますソフトウェア等は、著作権により保護されております。また非商用目的以外に、本書を複製、再頒布することを禁止いたします。

表記について

本書では以下の書体を使用しています。

- **イタリック文字**

本文中でのコマンド、ファイル名、変数など可変なパラメータ値を表します。

- **等幅文字**

ファイルの内容やコマンドの入出力例に使います。入力の場合にはボールドで表します。

```
$ cd /usr/src/sys/i386/conf
$ ls
GENERIC          Makefile         OLDCARD          SMP
GENERIC.hints    NOTES            PAE              gethints.awk
$
```

- **省略文字**

ファイルの内容やコマンドの入出力例を省略する場合に'...'を使います。

```
$ vi /etc/rc.conf
...
sshd_enable="YES"
named_enable="YES"
...
$
```

- **プロンプト**

一般または、管理権限を持った実行環境をそれぞれ、'\$'(ドル)、'#'(シャープ)のプロンプトで表します。

```
$ su
Password: root's passwd
#
```


目次

1.	はじめに.....	1
1.1.	本書について	1
1.2.	前提知識.....	1
2.	データベースのメンテナンス.....	2
2.1.	削除ポリシ	2
2.2.	パフォーマンスデータ	2
2.3.	削除ポリシの定義	3
2.4.	ポリシ設定例	4
2.5.	削除ツールの自動起動.....	5

1. はじめに

1.1. 本書について

本書は、monitoring environment using Nagios and PerfParse(Nagios と PerfParse を用いた監視環境)の補足として PerfParse で蓄積されるパフォーマンスデータの削除方法等について記述してあります。

各種ソフトウェアのインストール方法や設定方法等については関連文書を参照してください。

1.2. 前提知識

Unix の基本的なユーザオペレーションと、管理オペレーションが可能であることを想定しています。また、一般的な Internet プロトコルや、それに基づいて実装されたアプリケーションなどについて知っている必要があります。

本書では、ソフトウェア上の設定に関して、*parameter = value* といった実際の設定情報についてのみ記述します。これらの設定情報についての詳細は関連マニュアルを参照するべきでしょう。以下に挙げるドキュメントを参照しておくことを推奨します。

文献

文献	著者	リンク
monitoring environment using Nagios and PerfParse.doc	Isidore	
PerfParse Installation Guide	Garry Cook Ben Clewett Yves Mettier Flo Gleixner	http://perfparse.sourceforge.net/docs.php

2. データベースのメンテナンス

2.1. 削除ポリシー

Nagios から PerfParse へパフォーマンスデータが伝播すると、最終的に MySQL の InnoDB データベースへ格納されます。当然ながら時間経過に伴ってデータベースのサイズは大きくなっていきます。

通常、PerfParse を動作させているプラットフォーム上のファイルシステムの制限により、データベースは一定の大きさ以上にデータを格納することはできないはずです。

PerfParse で取得するパフォーマンスデータは特別な理由がなければ、古いデータを保存する必要はないと考えられます。

PerfParse ではこのような場合を想定したメンテナンスツールが付属しています。これらのツールはパフォーマンスデータの削除対象期間を定義し、そのデータを削除することができます。パフォーマンスデータの削除対象期間の定義を削除ポリシーと呼びます。

削除ポリシーはデフォルトポリシーとユーザ定義ポリシーがあります。ユーザ定義ポリシーが未定義の場合、デフォルトポリシーが適用されます。

2.2. パフォーマンスデータ

PerfParse が処理するパフォーマンスデータは 2 つの種類に分けることができます。

1 つはバイナリデータ、もう 1 つは RAW データです。

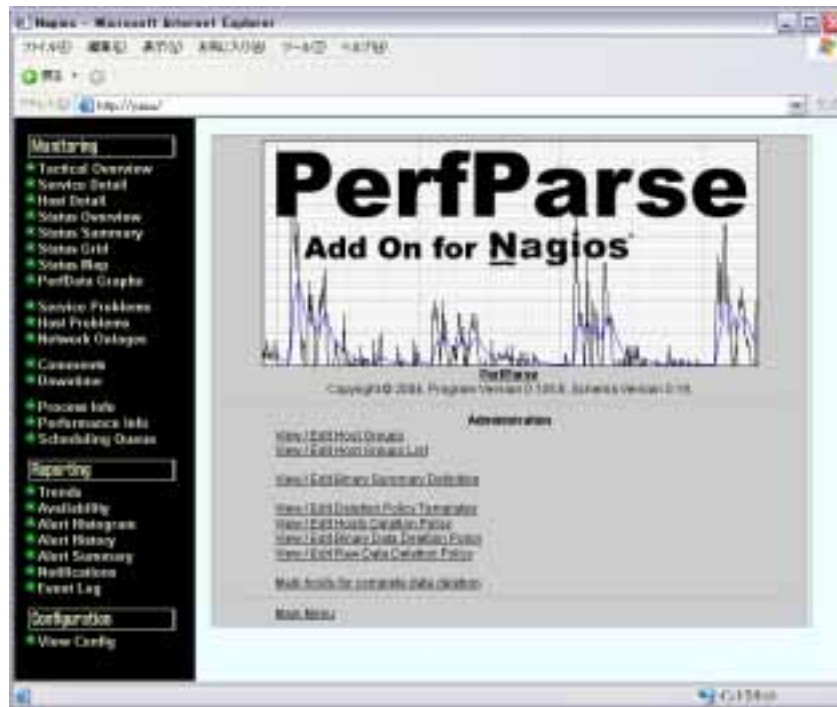
バイナリデータとは、プラグイン出力においてグラフにプロット可能な書式を持ったデータを表しています。RAW データはグラフにプロットできない書式を持ったデータとなります。

どのデータでも、表形式でマークアップされた出力体裁で履歴確認を行なうことができます。

2.3. 削除ポリシーの定義

基本的に、CGI でポリシーの設定を行ないます。

Nagios コンソールの左フレームから、PerfData Graphs リンクを選択して、メインメニューに移動します。Administration リンクを展開すると管理メニューが表示されます。



管理メニュー

リンク	内容
View / Edit Host Group	Nagios のホストグループ機能と別に PerfParse でもグループ機能を活用することができます。
View / Edit Host Group List	
View / Edit Binary Summary Definition	バイナリデータのサマリを生成する機能ですが、現在は実装されていません。
View / Edit Deletion Policy Templates	デフォルトの削除ポリシーを定義します。
View / Edit Hosts Deletion Policy	ホスト単位で削除ポリシーを定義します。
View / Edit Binary Data Deletion Policy	バイナリデータの削除ポリシーを定義します。
View / Edit Raw Data Deletion Policy	RAW データの削除ポリシーを定義します。
Mark hosts for complete data deletion	ホスト単位でパフォーマンスデータを完全に削除する機能です。

CGI で削除ポリシーを定義しても、ただちにそのポリシーが適用されるわけではありません。

これらの削除ポリシーはデータベース上の特定カラムに値を設定するだけです。PerfParse 付属の削除ツールを動作させると削除ポリシーについてのデータベース値を参照して、それに基づいたパフォーマンスデータを削除するのです。

削除ツールについては後述します。

2.4. ポリシ設定例

複雑な削除ポリシを定義するのでなければ、デフォルトポリシを変更して全パフォーマンスデータに対して削除ポリシを適用した方が簡単です。

View / Edit Deletion Policy Templates リンクをクリックします。

ポリシ名 Bin Default、Raw Default の項目にある Edit リンクをクリックして設定を変更します。

ここには削除ポリシの適用方法を選択するラジオボタンがあります。

適用方法	
タイプ	内容
Never	このラジオボタンがチェックされている場合、パフォーマンスデータを削除しません。
Always	このラジオボタンがチェックされている場合、パフォーマンスデータを全て削除します。
After Days	<p>このラジオボタンがチェックされている場合、エディットコントロールに入力した日数分以外のパフォーマンスデータを削除します。</p> <p>この機能について補足します。 削除ツールを起動した日から遡り、入力した日数がデータベースに残される、ということです。そして日数分より過去のデータが削除されます。</p> <p>つまり、過去のデータをなるべく多く残しておきたい場合には、ここに入力する日数は大きくするようにします。</p>

Enter ボタンを押下してポリシ変更をデータベースに反映します。

特定のホスト、またはパフォーマンスデータのみ、削除ポリシを変更したい場合は以下のようになります。

View / Edit Deletion Policy Templates リンクをクリックします。

Add Policy にポリシ名を入力し削除ポリシを定義します。

ユーザ定義の削除ポリシを定義した後に、適用したいパフォーマンスデータに対してポリシ名を選択してください。

2.5. 削除ツールの自動起動

PerfParse には削除ツール `perfpurge-db-purge` プログラムが提供されています。

CGI で削除ポリシーを定義した後で、`perfpurge-db-purge` を実行すると実際のパフォーマンスデータが削除されます。

この部分は cron によって自動起動するように設定しておくべきでしょう。

```
# vi /etc/crontab
...
MAILTO=administrator's mail addr

# Purge PerfParse DB daily at 3 AM.
0 3 * * * root /usr/local/bin/perfpurge-db-purge -r --no_transactions
```

`-r` オプションは、削除したデータについての詳細が標準出力に報告されます。

`--no_transactions` オプションは非トランザクションモードでデータを削除します。このオプションを指定しないとテーブルがロックされ、Nagios から PerfParse へ渡されたパフォーマンスデータの処理結果をテーブルに保存できなくなる現象が発生することがあります。このオプションは常に指定しておくべきでしょう。

PerfParse delete policies

改版履歴

Version 1.0	2005/08/26	新規作成。
-------------	------------	-------

製作

Isidore.

本書は 2005 年 8 月現在の情報を元に作成されております。本書に記載されております内容は、許可なく変更されることがあります。